

SHOEI

1959

取材協力/SHOEI
TEL03-5688-5180 http://jp.shoei.com/

日本の企業らしく、真面目でいいねい、品質に優れるモノづくりを継続するSHOEI。いまや日本国内や欧米だけでなく、アジア圏などにも販路を広げたグローバルブランドとして活躍し、プレミアムヘルメットの世界市場で53・1%ものシェアを占めるまでになったが、その本質はいつの時代も変わらない。

すべての製品は、2カ所の国内工場生産。工場内に潜入すると、そこは大量生産というより職人の世界に近い。シエルの成形や塗装、水転写グラフィックの施工や組み立てなど、手先が器用と言われる日本人のパワーをフルに発揮したような手作業が続く。とくに驚かされるのは検査の細かさ。匠のような従業員たちが、ひとつずつシエルの形状や塗装のキズなどをチェックしているが、その目は極めて厳しく、些細な不具合も見逃さない。同じSHOEIの社員でも部署が異なると、「いまのはどこが悪かったのか説明できません」と苦笑いすることもあれば、「そんなSHOEIは、新製品の開発にも人の力を生かし、それぞれの製品に個性がとことんこだわる体制を敷く。この春、2代目に進化するネオテックIIの開発を担当した二村拓さんは、SHOEIの基本的な開発までの道のりをこう話す。

「SHOEIでは、デザインと設計の担当が明確に分れていません。カラーリングやグラフィックこそ別部門ですが、最初のスケッチ段階から量産の直前まで、基本的にはひとり



SHOEIは、MotoGPチャンピオンのマルク・マルケス選手が愛用することでも知られる。マルケス効果による人気上昇も追い風に

が1モデルを担当します」

二村さんの場合、これまでジェットタイプを手がけることが多く、システムヘルメットをメインで担当するのはネオテックIIが初となった。ただし先代ネオテックの開発時に、細部の設計に携わった経歴を持つ。

「先代ネオテックも完成度はかなり高いと自負しているのですが、開発から何年か経過して、シールド周辺の設計など、先代で苦労した部分で新しいアイデアも溜まってきていたので、それらを製品化につなげることに挑戦しました。先進技術を導入

世界からの厳しい要望を製品として具現化するSHOEIのモノづくり

プレミアムヘルメットの世界シェア50%以上を誇るSHOEIは日本らしいこだわりのモノづくりを続けるグローバルブランド。例えば最新作のネオテックIIにも、その姿勢が表れている

PHOTO & TEXT/TAMAYA

大型風洞実験施設で空力にもこだわる

SHOEIは'09年、茨城工場に大型の自社風洞実験施設を設立。230km/hに達する疑似走行風を生むこの施設で、最先端の計測ロボットも用いながら、製品の空力特性に関する研究を続ける

あとは、聞こえている周波数帯が異なるためか、ノイズに関する要望も地域で異なることが多いです。例えばネオテックIIの場合、欧州と北米と日本で、内装に使われている生地の一部を専用化してあります。欧州の人は、起毛素材のような柔らかいタッチを好む傾向。日本とかアジアは高温多湿ですから、吸汗速乾素材が好まれます。内装に関しては別の部署があるのですが、全体の設計と切り離さない要素も多いので、連携しながら開発をしています」

頭形の違いに合わせて、仕向け地により内部形状を変えるというのは、近年では一般ユーザーにもよく知られるヘルメット設計手法だが、SHOEIはその一歩先を行くのだ。「ネオテックIIを手がけるにあたり、

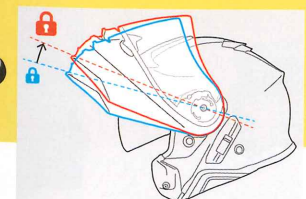
システムヘルメットがとくに好まれるフランスで、実際の使用状況を自分でリサーチしてきました。今回新たに導入したフェイスカバーの2段階ロック機構は、どちらかというとフランスでの使用環境に対応させた部分です」と二村さん。新製品開発に着手する際には、「そのヘルメットがとくに多く使われると想定される国や地域になるべく自分で出向いて、現在の使用環境を確認しています」という。しかしだからといって、どこかの国に特化した製品をつくるということではない。例えば今回の2段階ロック機構も、これが他地域のユーザーにとってマイナスとなることがないもない



専用設計されたブルトゥースインカム (SENA製SRL) を、ヘルメットの形状と一体になるように搭載できるのもネオテックIIの特徴

全開状態での作業などにも対応

フェイスカバーを全開保持するロック機構は2段階で、1段目から押し込むとより強固な保持力を発揮。衝撃で不意に下りることを抑止する



NEOTEC II 快適性と静粛性を よりハイレベルに

フェイスカバーが開閉可能でインナーサンバイザーを内蔵した、「全部入り」システムヘルメット。新開発のCNS-3シールドは、上端部がシェル側に折れ曲がった形状と、気密性が高いエアタイトシーリングにより、水や風が内部に入り込むのを抑止する。チークパッド下端には、静粛性を高める新内装パーツも備える



1.空力パーツとしても機能するトップエアアウトレット 2.ロアインテークはデフロスターとなる 3.内装は吸汗速乾素材と起毛素材のハイブリッド構造 4.アッパーインテークはグローブ装着時も操作しやすい



商品デザイン部 造形室 チーフデザイナー 二村 拓さん

ネオテックIIのデザイン設計を担当。SHOEIの開発陣や企画部には、みずからバイクを楽しむ人が多く、二村さんもホンダのCRF250Lに乗るリアルライダー

